

の自然塗料 柿渋 (青い渋柿を絞り数年熟成させる)。3回位木肌は摺込み塗りとする。 抗菌、防虫、防腐、などの効果がある。

★松丸太の材積計算 ~ 末口寸法×末口寸法×長さ。

★丸太の太鼓落し竹の子削りがこのまじい (元口と末口の幅違いとすること)。必要長さは仕口側の横架材真々の長さ+420mm(1尺4寸)位とする。 長さは乱尺となることが多いので長尺材では尺単位の長さを定尺長さとする。

◆ 3' 2階小屋組 → 勾配グループ

★小屋組(勾配グループ)では 仕上げ材の数量を(拾い出し)算出すれば、下地材が自動的に(係数による計算)に算出できる。 また設計図の不都合点がみいだせる。

仕上げ、あって、下地ありの原則あり、の考え方。

● 棟木 (わなぎ)

棟木は上端がしのぎ削られている。また母屋と棟木の関係(遠近工法)で、母屋寸法より大きめの寸法の材料 棟木寸法で成は幅より15~30mm(5~1寸)位大きい材料を使用すること。 棟木と垂木の止め工法に付いて、挿み合せ ~ 棟木の上端に直接垂木を打つ工法、たるき削り ~ 垂木の大きさをかぎ込んで棟木と垂木上端を平にする工法。(切妻屋根の蟬羽部が化粧の場合よく使用される)、面戸欠ぎ ~ 垂木の成だけ棟木の横面を欠ぎ込み(15~21mm(5~7分)位しやくりとり)をする工法。

それぞれ工法、加工の程度の違いがある。

棟木の継手について、上級、追掛け大柱継ぎ、中級、腰掛け鎌継ぎ、下級、腰掛け蟻継ぎ、束柱真より210~300mm(.7~1尺)以内に継手を設ける。

寄棟の場合の棟木の端部束真より150mm(5寸)位のばすこと。

● 隅木 (すみぎ) 谷木

隅木、谷木、に付いては、後で図示する。

○軒先が野地の場合。 母屋と隅木谷木等の仕口の関係上、隅木谷木寸法は母屋より一サイズ小さい材料を使用する。 または隅木谷木に母屋を架設する場合は母屋より一サイズ以上の大きい材料を使用する。 小屋束上の仕口により上記2種の架設工法がある。 前項では母屋を束上で組み、隅木谷木の仕口は渡りあご掛けとする。

隅木、谷木の長さの算出方法の目安として、棟真~軒先迄(隅木谷木迄)の長さの

5寸勾配以下、~ (1.5倍)

5寸勾配以上、~ 8寸勾配以下、 (1.6倍)

8寸勾配以上、~ 9寸勾配以下、 (1.7倍)

9寸勾配以上、~ 矩勾配、 (1.8倍)

○軒先出隅の仕舞に付いて、 広小舞(垂木を直接接している部材)は出隅では広小舞の幅の1/3~1/2位を隅に向って出す、一般的に柱真位のか所からゆるやかな曲線を出していく。 なお必ず広小舞、垂木鼻等は水平(レベル)を保つようにすること。

社寺建等では、茅負、裏甲の出隅に向って、反り照りが大きく、また茅負、裏甲、